

伝統と進歩

支部長 木村 友保 (名古屋外国語大学)

去る11月21日、中部支部では2010年度の支部長選挙の開票をした。その結果、最大の得票数を獲得した小宮富子氏が次期支部長、次点の大森裕實氏が副支部長に決まった。JACETが社団法人となって、中部支部のみが会長選挙と同じ方法で支部長選挙を実施し、今回が2回目である。まず実施できたこと、そして選挙結果も大方の会員の期待に沿うものであったと思う。

結果が出てみると会員の中には、「当たり前」の結果として捉える人々がいるかもしれない。しかし、そこに至る過程を知る者としては、これが決して当

たり前ではないことを承知している。今回の結果を会長にお伝えしたところ、すこぶる感心をしておられた。実は、全国に7支部あるが、中部支部のみが2年任期で支部長は交代している。今回の結果を知った他支部のある支部長は「中部は人材がいるのですね」というコメントを送ってきた。

確かに「支部長は2年で交代」が中部では伝統になっている。そして、私自身これは守るべき伝統であると確信している。支部長になる方は大抵がご自分の本務校においても重職についておられる。そういう方も2年と決まっていればなんとか引き受けられる。これが中部支部の考え方であり、先輩たちから今に至るまで完璧に踏襲されてきた。今後も守るべきだと思う。

しかし、支部の研究活動や学問的業績に関しては常に進歩を目指したい。幸い、中部支部では社団法人化して以来、各定例研究会や支部大会も順調に進歩している。支部研究紀要への投稿数も増えていると聞く。研究会活動が活発に実施されているために、定例研究会や支部大会への参加者も増えている。この傾向をさらに強めたい。

中部には「人材がいる」という事実をもっと掘り下げて、将来の支部長候補を発掘したい。同時に、将来性のある教育者・研究者を支援する体制も整えていく。このような仕事は、支部長を中心とする執行部だけではとうてい不可能である。会員諸氏の絶大なご協力が不可欠である。現執行部はそれを痛感している。同時に、今に至るまで多くの会員の皆様からいただいた温かいご支援に心から感謝したい。

目次

伝統と進歩	木村友保	1頁
The 15th International Conference of the International Association for World Englishes	榎木蘭鉄也	2頁
研究会紹介 CPHとSLA研究会	大森裕實	3頁
講演会報告 中山俊宏氏	倉橋洋子	3頁
会員フォーラム 「何を言うか」からの英語スピーチ教育	清水利宏	5頁
Cyber Space リーダビリティ公式と語彙レベルの利用	石川有香	6頁
掲示板	事務局	7頁
事務局より	石川有香	7頁

The 15th International Conference of the International Association for World Englishes

榎木蘭鉄也 (中京大学)

第15回 IAWE は、2009年10月22日から24日まで、フィリピンのセブで開催された。マニラ行きの飛行機の出発が10時間以上遅れるハプニングもあったが、フィリピン流の歓待と興味深い研究発表のおかげで、有意義な3日を過ごした。以下、基調講演と、印象に残った研究発表を紹介したい。

1つ目の基調講演は、中京大学国際英語学部の客員教授を勤めたこともあるデラサール大学の Danilo Dayag 氏による “Philippine English and College Textbook in Oral Communication: Exploring the Link between the World Englishes Paradigm” であった。講演内容は、フィリピンの大学で用いられる Speech や Oral Communication の教科書における分節音素および超分節音素と教材の内容の評価に関するものであった。

大会2日目の基調講演は、Eyamba Bokamba 氏 (イリノイ大学 Urbana-Champaign 校) による “Texts in Contexts: African Englishes and the Creative Writers” である。氏は、アフリカ人作家が書いた英文学作品の texts において、英語の使わ

れる contexts を検討し、使われている表現がアフリカ文化を描写しているかを考察し、アフリカ人作家が英語で文学を創作すべきか、あるいは文学作品でアフリカ英語を用いるべきか、その際、母語英語の基準に則って書くべきかなどを論じた。

大会最終日の基調講演は、JACET で長く活躍されている矢野安剛氏 (早稲田大学) による “Culture-Specific or Culture-General?: Cultural Differences in English Expressions” であった。氏は、英語が国際化した現在、英語を英米文化だけに関連づけるのは現実的でないとし、EGC (English for General Cultures) と ESC (English for Specific Cultures) の概念を提案した。氏は、ユーモアを交えながら、collocation の豊富な用例を通して ESC の説明をした。

本大会には日本人参加者も多数参加していた。JACET 会員では、関西支部の日野信行氏 (大阪大学)、中部支部からは倉橋洋子氏 (東海学園大学)、下内充氏 (東海学院大学) 等が発表した。倉橋氏と下内氏の発表は、各氏の本来の専門領域 (文学・言語学) の地道な研究に裏打ちされた学術的な発表で、World Englishes 論が堂々巡りをしているように思える昨今、両氏の発表を聴いて地道な学術研究の重要性を再認識した次第である。研究発表112件、テーマ別パネル3件、基調講演3件という盛り沢山の内容に加えて、Coffee Break と昼食ではフィリピン流の食

TOEIC® TEST 対策 e-Learning

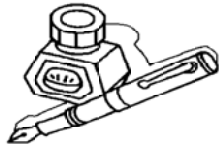
TOEIC®スコア 450 / 750 保証

- > 大学でのシラバス導入 / 成績評価 50%の実績!!
- > サーバー不要!! 学内外で即利用可能 (全国配備 250 台超)

■お問合せ先: ミックインターナショナル株式会社
〒461-0001 愛知県名古屋山東区泉 1-28-37 本ビル3階306号
TEL: 052-955-3333 FAX: 052-955-3334
http://www.mikintl.jp E-Mail: info@mikintl.jp

Newton group
(技術担当) グローバルエフォート
〒460-0008 愛知県名古屋市中区錦 2-17-11 伏見山ビル 1F,7F
TEL: 052-204-0305 + 専用線 708 FAX: 052-204-3888
http://www.global-effort.com E-Mail: info@global-effort.com

べ物攻勢を受け、よく勉強し、よく食べた3日間であった。



研究会活動報告

CPH と SLA 研究会

代表：大森裕實（愛知県立大学）

昨年度までの CPH と SLA 研究会の活動の中心は、主に、第二言語習得における臨界期仮説について実証主義的立場で書かれた海外論文を精読することであった。論文は、英語圏への移民を対象とした研究から、2000 年代に入っての外国語教育に関する調査まで多岐にわたるものであった。

会員相互間で勉強会を重ねるうちに、疑問は「臨界期」仮説から生成文法の立場、形式主義と構成主義、そしてピアジェとチョムスキーの論争に行き着き、今年度は Massimo Piattelli-Palmarini 編著 *Language and Learning: The Debate between Jean Piaget and Noam Chomsky* (1980) を読むことにした。知識の私的構成的立場の構成主義をとるピアジェは、

言語は認知発達段階で学習されるのであり L1 獲得のための特別メカニズムはないとする。一方、チョムスキーは、言語は環境的接触から構成されるにはあまりに複雑であり、言語特有のプログラミングに基づいて言語が発達するとしている。このように、本研究会活動の基盤となる議論に立ち返って、今一度古典的論文を検討することにより、新たな展開を構築できると考えている。

小学校英語教育の本格的導入を迎えようとする新時代に、私たち研究会がことばの発達に関する理論的側面についての研究を続けることの意義を認識し、さらにいっそうの努力を続けたいと思う。

講演会報告

「バラク・フセイン・オバマは 世界をどう見ているか」

中山俊宏氏（津田塾大学）

2009 年 10 月 17 日

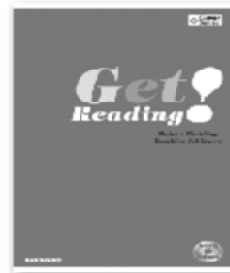
（南山短期大学外国語研究センターとの共催）

本講演の主旨は、演題においてオバマ大統領を「オバマ大統領」ではなく、「バラク・フセイン・オバマ」と示されているところに表れている。すなわ

金星堂の **Clover Series**、それは 2009 年度スタートの新シリーズ。教育現場の声に応える英語再入門シリーズです。お気軽に審査用見本をご請求ください



英語の日常歩をビジネスの幅を通じて楽しく学ぶ
GOOD JOB!
—Basic Skills for Better English
未来へ架ける英語の橋。
津村修志 / Anthony Allan / 加賀田哲也 / 小堀かをる / 館田潤彦 / 岡本真由美 著
B5 判、96 ページ、全 15 章、定価（本体 1,950 円＋税）
ISBN 978-4-7647-3876-8



読解力と文法の基礎を確応的にトレーニング
Get Reading!
大学生のための読解演習と基本文法
Robert Hickling / 市川泰弘 著
B5 判、120 ページ、全 22 章、定価（本体 1,950 円＋税）
ISBN 978-4-7647-3877-5



金星堂

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21 電話 (03) 326-3828 FAX (03) 3263-0716
URL: <http://www.kinsei-do.co.jp> E-mail: text@kinsei-do.co.jp

ち、オバマ大統領が大統領になる以前に培われた「国際感覚」や「対話への信念」が、大統領としての外交政策にいかんにか反映されているかを分析することが本講演の主眼である。

中山氏によれば「オバマ政権誕生の外交的文脈」は、オバマ大統領が歴代の大統領、リンカーン、ルーズベルト、それにケネディ大統領同様に、アメリカが難題を抱えている時期に大統領になったことである。現在アメリカが直面している問題は、大恐慌以来の経済危機、泥沼化したイラク、ベトナム戦争の二の舞になりかねない状況のアフガニスタン、イラクやアフガニスタンとは別に対処しなければならないテロ対策、ブッシュ政権により関係が悪化した外交の改善と再構築、環境や核不拡散など一国では処理できないグローバルな問題である。

このような外交的な難題に直面したオバマ大統領に問われるのは、「外交経験値」や「国際感覚」であると中山氏は説かれた。オバマ大統領は、実際の外交経験は少なく、軍事経験もないものの、上院議員時代に外交委員会委員として外交の知識を吸収し、アフガン戦争を支持しつつも、一貫してイラク戦争に反対してきた。また、オバマ大統領の「国際感覚」は、ハワイでケニア出身の父親とカンザス出身の母親との間に生まれ、母親の再婚のためにインドネシアでの生活体験を持ち、帰国子女としてアメリカで教育を受けたという生い立ちにより養われた。オバ

マ大統領は、自分のアイデンティティを絶えず模索しながら作り上げてきたのである。このような歴代の大統領と異なる体験により、オバマ大統領は異文化の人々の主張を理解できるようになっていった。さらに、ロスジェルス、ニューヨーク、シカゴの三大国際都市で育ち、コロンビア大学で国際関係論を専攻したことにより、他者に対する鋭敏な感覚もオバマ大統領が養っていったことも従来の大統領とは異なっている。

オバマ大統領の対話外交に関する中山氏の分析で印象的だったことは、大統領の対話外交が楽観的な「人は話せば分かるのだ」ではなく、他者との対話には困難があるが、それでも対話をせざるをえないという信念に基づいていることである。大統領はこの「対話への信念」に基づき、イランやトルコのようなイスラム圏においても対話を実行した。「大統領のスピーチに迫力があるのもこのためである」と語られた中山氏の分析には説得力がある。

中山氏は、このようにオバマ大統領の特質である豊富な異文化体験や「対話への信念」を明らかにした上で、大統領が直面する世界は「無極秩序の世界」であると分析された。世界は、冷戦の二極後、ソ連の崩壊によりアメリカの一極を経験したがそれも一時的で、今や「無極秩序の世界」である。中山氏は、この状態を覇権国家であったアメリカが没落したのではなく、アメリカが作った世界の中で他が台頭し

NHK WORLD NEWS : Global Perspectives

NHK ワールド・ニュースで学ぶ『聴く英語、読む英語』

木村友保 / NHK国際放送局監修 B5判 104頁 CD付 2100円(税込)

リーディングパートでトピックニュースを完全理解! 全24章、各章4ページ構成。

片野田 浩子先生 大好評 TOEIC シリーズ!

A shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650

K(カナダ)メソッズによる5分間 TOEIC テストリスニングシリーズ

A shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650

K(カナダ)メソッズによる5分間 TOEIC テストリーディングシリーズ

<TOEIC>

サブテキストに!

半期用教材として!

使い方多様、大好評5分間シリーズ

B5判 各735円(税込)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361

南雲堂

TEL03-3268-2311 / FAX03-3269-2486 / <http://www.nanun-do.co.jp/>

てきたのであると解説された。よって、アメリカは他を対話可能な相手としてみなければならない。すなわち、アメリカは極がない状況においてパートナーをつくり、対話をしていかねばならない。アメリカは中国か、日本かの選択ではなく、問題ごとにパートナーを作っていくことになる。例えば、環境問題に関して、アメリカは中国を無視できない状況にあるからである。

また、「プラハ演説」においてオバマ大統領が核の廃絶を唱えた真意についても中山氏は触れられた。核廃絶を唱えた「プラハ演説」について、アメリカにとって核不拡散と核軍縮は深刻な問題であり、そのために「あるべき世界」、理想としての核廃絶を訴えた中山氏は分析する。

何が変化して何が変化しないかを我々は見極めなければならないと中山氏は締めくくられた。会場からの質問も活発になされ、有意義な講演会であった。

倉橋洋子 (東海学園大学)



会員フォーラム

「何を言うか」からの英語スピーチ教育

清水利宏 (大阪経済大学)

多様な英語教育法が実践される教育現場において、「英語スピーチ」を通じて英語力の向上を目指す取り組みは、特に珍しいものではなくなった。自らの主張を論理的に整理して発表するという流れの中で、首尾一貫した分かり易い本文(content)の構築と、聞き手を意識した英語の発表作法(delivery)の両者を同時に指導できる点は、英語教育現場でスピーチが幅広く活用されている理由のひとつだろう。しかしながら、スピーチを通じて学生が「英語力」向上を目指す一方で、自分の主張を英語で「どう言うか」以前に、「何を言うか」の段階で悩む学生が増えてきたように感じられるのは皮肉なことである。

スピーチ教育の意義をどこに置くかは指導者によって様々であるが、「スピーチ (弁論)」という名の通り、まずは発表者の主張(content)を確立することが重要であると筆者は考える。独自性のある、しっかりとしたcontentがあつてこそ、それを伝える英語表現や発表技法(delivery)が本来の輝きを発揮できる、とも言えるだろうか。実際の授業を例に問題点を挙げれば、情報伝達型のinformative speechであ

成美堂 2009年 新刊案内

Speaking in Public 総合教材・自己表現 1,900 円(税別)	Meet the World 2009/2010 時事英語 1,900 円(税別)
Styling Corporate Messages 総合教材・企業紹介 --- 1,900 円(税別)	Made in Britain リーディング・時事事情 1,800 円(税別)
Science Square 総合教材・科学 1,800 円(税別)	Essential Approach for the TOEIC® Test 2,000 円(税別)
Reading Expert 1 総合教材・速読・リーディング 1,800 円(税別)	<small>TOEIC® 総合教材</small>
Welcome to BBC on DVD DVD 教材・トキモノ別 2,300 円(税別)	The TOEIC® Test Practice with Core Vocabulary Book 2 2,000 円(税別)
Tune up for the TOEIC® Test Listening 900 円(税別)	<small>TOEIC® 総合教材</small>
<small>リスニング 副教材・TOEIC®</small>	Pharmaceutical English 1 薬学英語 3,000 円(税別)
Scaffolding 英作文・英文法 1,900 円(税別)	Children's Garden 保育英語 2,400 円(税別)
Living Grammar 英文法・リーディング 1,900 円(税別)	
Access to Simple English 1,900 円(税別)	
<small>英文法・リーディング・web 学習</small>	

株式会社 成美堂 SEIBIDO

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL: <https://www.seibido.co.jp> e-mail: seibido@seibido.co.jp

れば滑らかにスピーチができる学生でも、いざ社会問題を分析し、みずから解決策を提示する persuasive speech となると、何を言えば良いのかが分からず、論旨が一般論かつ曖昧なものに終始するという状況に直面する。ここで求められるのが、英語で「どう言うか」の指導よりも、そもそも「何を言うか」という基礎的な領域でのスピーチ教育である。

筆者が担当する英語スピーチの授業では、informative speech を用いて基本的な発表作法を演習したのちに persuasive speech の実践へと進んでいく。この際、4コマの講義を割いて、次の課題に取り組む。【1時限】各自が8つの社会問題を取りあげ、「なぜこれが問題か」について、グループごとにブレインストーミング（※着眼点の意見交換）。→【2時限】先の8つの中から4つに絞り、それぞれ「問題の概要」「実際の事例」「解決策」をリサーチし、再度ブレインストーミング（※独自性の意見交換）。→【3時限】先の4つの中から2つに絞り、入念に調査・検討してレポートに仕上げ、他の学生からの質問に答える（※専門性の意見交換）。→【4時限】最終的に1つのテーマについて「スピーチの構想」を固め、構造図にして発表する（※方向性の確定）。

これらの4ステップを踏むことで、学生はみずからの論点に自信と独自性を獲得し、優れたスピーチの基本が content にあることを理解していく。これは、たとえ英語（広義での delivery）が苦手な学生であっても、content に自信が持てれば、堂々とした発表姿勢に結びつくことを理解させるための取り組みでもある。

こうした実践は、英語弁論の発表技法を指導するというスピーチ教育の技術的側面から一歩踏み込んで、学生の物事の見方や価値観を問いかけるものである。三熊（『英語スピーキング学習論』三修社、2003）は、「社会的インターフェイス装置」という言

葉を用いて英語スピーチの社会的意義に触れているが、「どう言うか」よりもまず「何を言うか」がスピーチの鍵となる点を体験的に学生に理解させることが、英語スピーチ教育においては不可欠である。現実的には、筆者が審査委員を担当するいくつかのスピーチコンテストにおいても、しばしば content と delivery の優先度が議論され、必ずしも content の良し悪しがそのまま結果に結びつかないこともある。しかしながら英語スピーチは、やはり content あってのスピーチであり、「何を言うか」の土台があつてこそ「どう言うか」が評価されるべきであるをお願いしたい。

自由なテーマを与えるだけでは「何を言うか」を見出せない学生が増えるにつれ、英語教員は更に広い視野をもって、（英語教育以前に）学生の問題意識そのものを喚起する必要に迫られる。筆者自身、今後も常に自戒の念をもってスピーチ教育に取り組むとともに、先生方の多様な教育経験を共有できればと願うところである。

CyberSpace

リーダビリティ公式と語彙レベルの利用

石川有香（名古屋工業大学）

「読みやすさ」というきわめて主観的なテキストの特徴を、文長や使用語彙の種類など計量可能な言語特徴を用いて数値で示そうとするものがリーダビリティ指数である。主に、学習者に適した読解教材を選択する場合やライティング技能の測定を行う場合の指標として使用されている。これまでにすでに百を超えるリーダビリティ公式が開発されてきたが、現在最も広く知られている公式は Flesch Reading Ease と Flesch-Kincaid Grade Level であろう。前

者は0-100までの数値で、また、後者は米国の学校学年で評価される。

これらはMicrosoftのWordの中にも組み込まれていて、この機能を用いるとWordで作成した英文テキストのリーダビリティ指数が瞬時に計測される。たとえば、Word2007であれば、「校閲」のタブから「スペルチェックと文章校正」を選ぶと、校正作業が終わった段階でリーダビリティ指数も表示される。Wordが使用できる環境であれば、学生が自分自身のライティングをチェックする際に、指標の一つとして利用することもできる。

Wordを含め、リーダビリティ測定プログラムの利用で注意すべきことは、プログラムによって語や音節の数え方などが異なるために、結果として、同一の公式にあてはめられたものであっても指数が異なってしまう可能性があることを理解しておくことであろう。特に、テキストに使用された語の音節の数に依存する割合が高い公式は、プログラムが使用している辞書によって、リーダビリティ指数にかなりの差が生じてしまうこともある。

インターネット上には、テキストをコピー&ペーストで入力するだけでリーダビリティ指数を無料で算出するさまざまなサイトが設けられており、上記の注意点さえ理解してさえいれば、教材用テキストを選択する際などには、便利なツールとなり得る。ここでは、複数の公式による異なる指標を一度に算出し、また、インターネット上のURLを打ち込むとそのままリーダビリティを提示するTxReadability (<http://webapps.lib.utexas.edu/TxReadability/app?service=page/Home>) と Confucius Institute の Online Utility (http://www.online-utility.org/english/readability_test_and_improve.jsp) を紹介しておく。

こうした指標は米国の学習者用であるため、日本の学習者のために開発された語彙レベルもチェック

しておきたいという場合には、中部支部会員の清水伸一氏が作成したJACET 8000 Level Marker (<http://www01.tcp-ip.or.jp/~shin/J8LevelMarker/j8lm.cgi>) が便利である。このプログラムは、すでに多くの会員の間で研究にも使用されているのだが、テキストをコピー&ペーストで入力するとJACET 8000の語彙レベルを表示してくれるために、教材の選定時だけではなく、テスト問題の作成時にも大いに役立つツールとなっている。

掲示板

JACET 中部支部長選挙管理委員会では、選挙管理委員の3名(田中春美、木村友保、石川有香)が11月21日(土)に支部会員による投票の開票を行い、田中春美委員長が投票結果を報告しました。

投票総数	110票
有効投票数	108票
無効投票数	2票

結果(アルファベット順)

小宮富子氏	66票
大森裕實氏	42票
無効	2票

上記結果を受け、同日の支部役員会にて2010年度支部長と副支部長を以下のように決定しました。なお任期は2年となります。

支部長	小宮富子氏(岡崎女子短期大学)
副支部長	大森裕實氏(愛知県立大学)

事務局より

◆ 12月定例研究会のご報告

2009年12月19日(土曜日)に名古屋工業大学にて12月定例研究会が開催されました。国際英語と異文化理解研究会による研究発表(2件)と静岡大学情報

学部大島純教授による講演が行われました。フロアからも活発な質問・意見が寄せられ、有意義な時間となりました。

◆ 2月定例研究会のご案内 <研究発表募集>

2010年2月27日(土曜日)に名古屋工業大学(JR「鶴舞」駅「名大病院口」から東へ400m)にて、2月定例研究会を開催します。研究発表を希望される方は、1月5日までに、氏名・所属・題目・概要(日本語300字または英語200語程度)を事務局までメールにてご連絡ください。なお件名は「定例研究会研究発表申し込み」としてください。

◆ 2010年度中部支部大会のご案内

2010年6月6日(日曜日)に中京大学にて2010年度JACET中部支部大会を開催いたします。大会テーマは「多文化共生時代の英語教育」です。研究発表をご希望の方は、氏名・所属(共同研究者全員)、発表題目、概要(日本語300字または英語200語)を事務局まで、メールまたは郵便にてお送りください。なおメールの場合は件名を「JACET支部大会申し込み」として下さい。申し込み期間は1月1日~2月28日です。

◆ 新入会員のご紹介

2009年6月より2009年11月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

尾崎志津子(名古屋文理大学)、安田有紀子(名城大学(非常勤))、田中裕実(富士常葉大学(非常勤))、大石倫子(静岡大学)、高木久代(鈴鹿医療科学大学)、安達理恵(名古屋外国語大学(非常勤))、恩澤幸代(東京大学(大学院生))、Bingol, Tekin(常葉学園大学)、坂東貴夫(名古屋大学(大学院生))、大達誉華(名城大学(非常勤))、加藤鉄生(名古屋学院大学(大学院生))、有元将剛(南山大学)、Veinot, Nicholas

(常葉学園大学)、小田節子(金城学院大学)、尾崎正弘(中部大学)、村上嘉代子(金沢工業大学)

◆ 2010年度全国大会のご案内

第49回(2010年度)全国大会は、宮城大学大和キャンパスにて9月7日(火)~9日(木)の日程で行われます。テーマは以下のとおりです。

「明日の学習者、明日の教師—大学英語教育における学習者と教師の自律的成長—」

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望、会員フォーラムへのご投稿がございましたら、事務局までメールにてお知らせください。

JACET 中部事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学 石川有香研究室

メール宛先 ishikawa.yuka@nitech.ac.jp



JACET-Chubu Newsletter 第23号

2009年12月20日発行

発行者：大学英語教育学会中部支部
木村友保

編集者：石川有香 片野田浩子 佐藤雄大